

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立第四日野小学校

【国語】

(1) 国語科の定着状況についての概要 ※「七年」…本校を卒業した現在7年生の卒業生

現学年		観点別正答率		基礎・活用	
		知識・技能	思考・判断・表現	基礎	活用
二年	目標値	85.6	63.9	81.0	56.3
	本校平均正答率	86.8	72.1	84.9	64.6
三年	目標値	77.8	67.1	79.0	56.9
	本校平均正答率	84.5	75.8	86.0	66.5
四年	目標値	74.5	65.7	74.1	58.8
	本校平均正答率	79.7	74.2	79.0	70.9
五年	目標値	72.7	59.7	69.4	55.6
	本校平均正答率	74.3	63.9	72.4	59.2
六年	目標値	65.5	58.0	66.1	50.0
	本校平均正答率	75.8	68.3	75.4	62.5
七年	目標値	69.5	56.7	67.4	50.0
	本校平均正答率	78.8	60.4	74.4	53.6

・全学年、全ての項目で目標値よりも正答率が上回っていることから、定着状況は概ね良好であるといえる。特に、3, 4, 6年生は、どの項目も目標値より4ポイント以上高く良好であるといえる。

(2) 具体的な課題

- ・言葉の学習の領域が、目標値をわずかに下回る学年が多い。カタカナやローマ字、漢字の定着に課題がある。また、修飾される語に着目して文の構造を捉える力が十分に定着していない。
- ・自分の考えを論理的に説明する記述式問題に対する無解答が多く、考えを表現することに課題がある。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・漢字等の言語に関しては、授業で学んでも、日常生活で繰り返し使う機会が少ないため、定着しにくいと考えられる。
- ・自分の考えを根拠とともに文章で表現する力や、設問の意図を捉える力が十分に定着していないこと、また記述問題への自信の無さが無解答に繋がっていると考えられる。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

・研究で行っている週末日記を活用し、日常に起こった出来事を文章化する機会を設けて、書く力を身に付けさせる。その際、習った漢字は、積極的に使用するよう指導する。また上記の課題である相手や目的を意識して伝えたいことを明確にして書くこと、文章の構成を考えること、自分の考えを明確にして理由も含めて文章を書くことを意識して指導する。

(5) 次年度の数値目標(成果指標)

- ・全学年、全項目で平均正答率の目標値を上回っているため、これを維持し、さらに正答率の向上を目標とする。

【社会】

(1) 社会科の定着状況についての概要 ※「七年」…本校を卒業した現在7年生の卒業生

現学年		観点別正答率		基礎・活用	
		知識・技能	思考・判断・表現	基礎	活用
四年	目標値	70.6	55.5	70.0	48.6
	本校平均正答率	72.4	57.7	70.9	53.8
五年	目標値	64.3	65.0	68.1	55.7
	本校平均正答率	65.7	66.2	69.9	55.4
六年	目標値	68.4	62.9	67.6	62.8
	本校平均正答率	77.8	73.4	76.8	74.1
七年	目標値	50.0	58.0	52.9	52.5
	本校平均正答率	53.6	62.0	56.5	56.6

- ・4・6年生については、目標値を正答率が上回っていることから、定着状況は良好であるといえる。
- ・5年生については、活用問題の正答率が目標値よりも下回っており、課題が目立つ。

(2) 具体的な課題

- ・資料の読み取りや、資料をもとに考える問題において、正答率が目標値を下回る結果となっている。
- ・各学年で課題が見られた単元は、次の通りである。
4年…「店で働く人」、「安全なくらし」「市の様子の移り変わり」「くらしの移り変わり」
5年…「ごみのしよりと利用」
6年…「日本の水産業」、「情報を生かした産業」

(3) 課題の原因として考えられること

- ・グラフや地図、イラストなどから正確な情報を読み取り、文章と結び付けたり比較したりする作業が不十分であることが考えられる。
- ・ごみ出しのルールやスーパーの仕事、警察の役割など、身近な社会的事象に対する具体的なイメージができていないことが考えられる。
- ・現代の暮らしと異なる歴史的背景や生活の知恵を概念として捉えきれていないことが考えられる。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

- ・視覚資料を正確に読み取り、比較・考察する力を身につけさせる。
- ・資料のキーとなる情報に線を引いたり、複数の資料を比べたりしながら解く、資料活用の授業の工夫を行う。
- ・ゴミ出しのルールやお店・警察の仕事などを、単なる暗記ではなく、「なぜその仕事・ルールが必要か」という目的まで考えさせる授業の工夫を行う。
- ・実物写真や映像を活用し、身の回りの社会の仕組みにリアルなイメージをもてるようにする。

(5) 次年度の数値目標(成果指標)

- ・各学年、観点別正答率において区の平均正答率を上回ること、正答率を上げることを目標とする。

【算数】

(1) 算数科の定着状況についての概要 ※「七年」…本校を卒業した現在7年生の卒業生

現学年		観点別正答率		基礎・活用	
		知識・技能	思考・判断・表現	基礎	活用
二年	目標値	81.2	62.5	79.6	65.7
	本校平均正答率	83.7	66.9	81.7	72.3
三年	目標値	77.2	66.7	78.0	63.3
	本校平均正答率	75.6	68.2	76.9	63.1
四年	目標値	75.5	60.0	75.0	61.4
	本校平均正答率	80.0	65.8	80.2	65.4
五年	目標値	67.0	48.8	64.5	57.5
	本校平均正答率	66.6	49.4	65.7	54.8
六年	目標値	69.2	54.1	67.3	53.8
	本校平均正答率	78.8	63.8	76.8	63.7
七年	目標値	65.9	58.5	64.8	59.3
	本校平均正答率	76.0	71.4	76.2	68.8

- ・2・4・6年生については、全ての項目で正答率が目標値を上回り、定着状況は良好である。
- ・3年生については、「思考・判断・表現」の正答率が目標値を上回っていたものの、それ以外の項目で目標値を下回り、定着に課題が見られる。
- ・5年生については、「知識・技能」と「活用」の正答率が目標値を下回り、課題が見られる。

(2) 具体的な課題

- ・3年生においては、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の全領域の定着に課題が見られた。
- ・2・4・5年生においては、「図形」領域の定着に課題が見られた。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・計算のきまり(結合法則や分配法則)を理解したり、そのきまりを用いて問題と解いたりすることが不十分だと考えられる。
- ・多くの学年が図形領域に課題が見られ、身の回りの形について、名称や性質に触れる機会が少ないからだと考えられる。
- ・定規を使って長さを計ったり、量りを使って重さを計ったりする経験が不十分と考えられる。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

- ・基本的な計算の仕方や計算のきまりへの理解及び活用を高めるために、はげみ学習の時間などを利用して定着を図る。
- ・身の回りにある形を取り上げて、日常生活と結び付けて覚えられるように工夫していく。
- ・定規で長さを計ったり、物の重さを計ったりする体験を多く取り入れる。

(5) 次年度の数値目標(成果指標)

- ・目標値より下回った項目を目標値に近づけることを中心に、平均正答率の向上を目標とする。

【理科】

(1) 理科の定着状況についての概要 ※「七年」…本校を卒業した現在7年生の卒業生

現学年		観点別正答率		基礎・活用	
		知識・技能	思考・判断・表現	基礎	活用
四年	目標値	61.2	61.4	64.5	53.8
	本校平均正答率	61.7	65.8	66.4	57.8
五年	目標値	61.5	52.9	65.5	41.1
	本校平均正答率	56.1	47.4	60.7	34.3
六年	目標値	59.7	51.3	61.8	45.5
	本校平均正答率	62.7	53.4	63.3	50.3
七年	目標値	52.3	49.3	53.3	46.0
	本校平均正答率	55.2	58.9	59.0	53.3

- ・4・6年生については、目標値を正答率が上回っていることから、定着状況は良好であるといえる。
- ・5年生については、正答率が目標値よりも下回っており、課題が目立つ。

(2) 具体的な課題

- ・4年生においては、生命・地球領域における「植物の育ち方」「身近なしぜんのかんさつ」「太陽と地面のようす」、物質・エネルギー領域における「物の重さ」への定着に、特に課題が見られる。
- ・5年生においては、生命・地球領域における「自然の中の水」「天気のようにと気温」、物質・エネルギー領域における「物の体積と温度」「水のすがた」の学習への定着に、特に課題が見られる。
- ・6年生においては、生命・地球領域における「けんび鏡の使い方」「人のたんじょう」、物質・エネルギー領域における「電流のはたらき」「ふりこのきまり」の学習への定着に課題が見られる。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・どの学年も、課題の見られる分野は基本的な知識・技能が定着しておらず、基礎知識を活用場面で十分に使いこなせていないことが考えられる。
- ・実験結果から根拠を示して説明する学習経験が不足しており、記述問題への対応力が十分でないことが考えられる。
- ・授業での観察や実験と、日常生活との関連付けが弱く、現象を科学的に考察する力が十分に育っていないことが考えられる。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

- ・基本的な知識・技能を定着させるため、授業内で繰り返し復習する機会を設け、継続的に既習事項の確認を行う。
- ・観察や実験の結果を比較・考察する機会を増やし、文章で説明する活動を継続的に取り入れる。
- ・日常生活の事象と関連付けながら、「なぜそうなるのか」を考える授業を充実させる。

(5) 次年度の数値目標(成果指標)

- ・各学年、観点別正答率において区の平均正答率を上回ることを目標とするとともに、正答率を上げることを目標とする。

【英語】

(1) 英語科の定着状況についての概要 ※「七年」…本校を卒業した現在7年生の卒業生

現学年		観点別正答率		基礎・活用	
		知識・技能	思考・判断・表現	基礎	活用
六年	目標値	79.4	75.3	79.7	72.5
	本校平均正答率	88.6	83.7	89.1	79.8
七年	目標値	80.0	64.7	76.5	67.5
	本校平均正答率	90.6	77.2	87.4	80.2

- ・6年生は目標値を上回っており、定着状況は良好であるといえる。

(2) 具体的な課題

- ・聞く領域において、基礎的な知識・技能は概ね定着しているものの、日常会話を聞いて内容を理解することに、課題が見られる。
- ・書く領域において、目標値は下回っていないものの、基本的な語句や表現を活用して文章を書く力に、やや課題が見られる。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・日常会話を聞き取り、必要な情報を整理する経験が十分でないと考えられる。
- ・習得した表現を使って自分の考えを英文で表現する活動が、不足していると考えられる。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

- ・ペア活動などで、習った表現を実際の場面で繰り返し使う機会を増やし、日常会話を聞き取って必要な情報を整理する経験を積み重ねる。
- ・単語だけでなく、基本文型を用いて短い英文を書く活動を積み重ねる。
- ・JTEと連携し、単語や文法が正しく扱えているのかを全体で確認し、正確な英語を使って活動する時間を確保していく。

(5) 次年度の数値目標(成果指標)

- ・全項目で区の目標値及び平均正答率を上回ることを目標とするとともに、正答率を上げることを目標とする。